

第4回 大宮公園グランドデザイン検討委員会

資 料

I 前回の委員会意見のまとめ	1
II 大宮公園グランドデザイン（案）	3
1. 大宮公園グランドデザインのねらい.....	4
2. 大宮公園及び周辺地域の現状と特性	5
3. 大宮公園をめぐる背景	8
4. 大宮公園グランドデザイン検討にあたり考慮すべき事項	9
5. 大宮公園の将来像	11
6. 将来像の実現に向けた施策.....	12

平成 30 年 9 月 13 日

埼玉県都市整備部

これまでの委員会資料はすべて、埼玉県の HP に掲載されています。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a1105/oomiyagd.html>

大宮公園ランドデザイン検討委員会 検討スケジュールについて

	委員会開催実績・予定
平成 29 年度 (2回)	<p>10月17日 第1回検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮公園及び周辺地域の歴史、現状等の確認 <p>2月7日 第2回検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮公園の課題の整理 ・大宮公園ランドデザインの基本的な考え方の確認
平成 30 年度 (3回予定)	<p>5月18日 第3回検討委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大宮公園の5つの特性（テーマ）の抽出 <p><u>9月13日</u> <u>第4回検討委員会</u>（中間とりまとめ）</p> <p>（県民への意見募集）</p> <p>1月 第5回検討委員会（最終とりまとめ）</p>

I 前回の委員会意見のまとめ

テーマ	内 容	御意見への対応
第一公園と第二・第三公園について	歴史や機能の面からすると、第一公園と第二、第三公園はあまりにも違う。機能的な面での一体化は歴史的な経緯からも、好ましくないのではないかと。	<p>対象範囲は大宮公園全体とする ⇒ p.4</p> <p>飲食のできる店舗の導入を位置づける ⇒ p.12</p>
	日本の伝統的な空間には、例えば明治神宮の内苑と外苑みたいな関係もある。一見異なるように見えるものが、相まって一つの世界を構成するという考えもある。	
	新しい公園では今の市民生活の中で、カフェといった皆さんが楽しめるようなものがあるといい。第一公園にはかつて割烹旅館があり、そこで出すウズラ料理を漱石や子規が絶賛した。食をテーマとするなら、ウズラ料理や、氷川神社の神事と関わりの深い川魚料理が楽しめるようにしたいのではないかと。	
コンセプト案について	国際化の意味合いをもって大宮をアルファベットにしたというが、国際化の話はどこにも出ておらず、国際化の施策が位置づけられないなら、アルファベットにする必要はない。	<p>コンセプト案を見直した ⇒ p.11</p>
	公園の名称はその固有の歴史を表現しており、神社との関係などにこだわる必要はない。コンセプトを表現するキャッチコピーを考えておく必要がある。	
周辺の計画との関係について	大宮公園のランドデザインは、市の大宮駅ランドセントラルステーション化構想や東口の再開発に合わせてやるべきだと思う。	<p>周辺の計画を整理し、将来像の検討に反映した ⇒ p.4、8</p>
	大宮は広域地方計画にも東日本の交流拠点として位置付けられている。また、現在計画中の大宮ランドセントラルステーション化構想の中でも大宮公園はキーワードになるだろう。人が動くことでまちの価値も上がる。大宮公園と周辺エリアの関係は重要だ。	
	さいたま新都心からだけでなく、大宮駅からの動線、ランドセントラルステーション構想も含めた市の計画も考慮する必要がある。	
管理運営について	管理がすごく大事で、氷川神社の社叢林の北側の氷川の杜や桜の杜を、神社と一緒に管理すれば、もっといい具合になると思う。氷川神社の参道からの人の流れなどを考えると、やはり神社と県が協力しないとまくいかならないと思う。	<p>便益施設の整備などに Park-PFI 等の活用を位置づけた ⇒ p.12</p> <p>将来像の実現に向けた施策にエリアマネジメント等民間の参画を位置づける ⇒ p.12</p>
	社会保障関連経費が増大し、建設関係の予算が減少している。今後、公園が自立できるよう、Park-PFI など新しい制度により、公園で収入を生み出す必要があり、大宮公園もそのようなことを考える必要があるだろう。	
	日本では公園に指定管理者制度を導入しているが、ただ安く管理させているだけで、活性化するとは思えない。アメリカのように、公園の運営権を民間に売るなり貸すなりして、ビジネスができるしくみをつくる、あるいは、行政で最低限のインフラを整備して、あとは民間に投資させる。こうしたシステムをつくるべきだ。	
	民間の力を入れていくには、エリアマネジメントだけでも設置して、地域を交えて一緒になってやらなければいけない。民間も当然投資をしていくというのが前提ではないか。	
	今は様々な手法があるが、県側にとって都合のいいことばかり言っても、民間がその条件では受けられないということもあるだろう。	
今ある施設について	今ある施設について、残すものとやめるものとを、議論しておくことは、将来使い切ったときにこの機能を残すかどうか決着をつけるのにいい機会だ。	<p>文化の杜、活動の広場の整備方針の中で考え方を整理した ⇒ p.14</p>
	残す、やめるといったときの理屈付けを明確にする必要があるのではないかと。そのスポーツがあることで経済効果が大きいから残すし、そうでないものは廃止する、といったものがあるとよい。このような理屈がないと、関係者は納得しないだろう。	
	今ある施設の更新を考えると、民間活力導入の話もある。民間は収支をまず考えるので、民間資金の導入といっても、耐用年数の話がまずあるとすると、手を出しづらい。この点をよく考える必要がある。	
	なくすものが出てくるのはいいが、それぞれの施設には深い歴史がある。公園を訪れた人に、そういう歴史的事実を伝えるガイダンス施設をつくる必要がある。単になくせばいいというのではなく、それまでの歴史もどこかで残しながらも新しくしていくべきだ。	

テーマ	内 容	御意見への対応
運動施設について	<p>大宮公園に隣接して市営公園もあり、一般市民目線からすれば、行政としては一緒なのだから、うまく調整してできないものか。地元の人たちも、同じところに県営と市営の施設が2つなくてもいいのでは、と言っている。一方で、競技関係者は県営野球場を無くされては困ると言っている。</p> <p>県営野球場は団体使用ばかりで一般利用はほとんどできない。一般市民の感覚からすれば、プロ野球も年間3試合しかやっていないし、自分の応援しているチームでもなければほとんど行かない。気軽に行くようなところではない。</p> <p>スポーツをやるとき、クラブハウスが重要だ。汗をかくけれど、そのまま帰るのではなく、そこにシャワーやジャグジーがあって、おいしいご飯も食べられるとなれば、人々は周辺に住んで利用したいと思うのではないか。</p> <p>海外のジャーナリストが、NACK5スタジアムを世界的にも見劣りしないスタジアムなのでうまく使っていくべきだ、と記事にしているようにスタジアムを評価する声もある。</p> <p>運動施設が緑豊かな中であって、そのスタジアムに行く道すがら楽しいとか、これからはそこまで考えないといけない。</p>	<p>文化の杜、活動の広場の整備方針の中で考え方を整理した ⇒ p.14</p>
公園が周辺に与える影響	<p>公園の存在により周辺の地価が上がる、という視点が大事だ。住民が、この公園があるからここに住みたい、ということで地域の人気上がり、地価が上がるのが重要である。当然、それに見合わない機能はなくしていくべきで、大宮公園では競輪場はいらないだろうし、プールも流れるプールならば必要なのかもしれない。</p> <p>休日の素敵な朝食の時間やお昼の楽しい時間を過ごせる場所が公園内にあるといい。レストランやカフェでは地場産のものを使い、スタイリッシュであるべきだ。そうすれば周辺の施設のレベルも上がっていくと思う。</p>	<p>文化の杜、活動の広場の整備方針の中で考え方を整理した ⇒ p.14</p>
アートについて	<p>芸術がないと公園の価値は上がらないと思っている。現状には、芸術とかアートに関するものが感じられない。</p>	<p>文化の杜の整備方針に位置づけた ⇒ p.14</p>
「農」のイメージについて	<p>第二・第三公園で「農」の話があり、確かに見沼と「農」は切り離せないかもしれないが、大宮公園で「農」は難しいのではないかと。「農」の風景はいいが、活動を広げるとするのは難しいのではないかと。</p> <p>渋谷区のように地価のとても高いところに区民農園がある、六本木ヒルズには園芸クラブがあってタワーの住民が参加しているなど、最近では結構求められている要素だ。ドイツでは、クラインガルテンは相当な量を占めるゾーニングである。日本の戦前にはほとんどの住宅に菜園があったように、ここで農産物を生産して稼ごうというものではない。「農」の風景というのはそういう日本文化の象徴である。</p>	<p>第二、第三公園において見沼田んぼとの連続性が感じられる空間づくりとして整理した ⇒ p.14</p>
第一公園と第二公園の連絡について	<p>第一公園と第二公園を結ぶところは、産業道路が通っていて、行き来しづらい。この部分をしっかりときれいに整備することにより、人の流れが生まれて、一つの公園として機能するのではないかと。地元の人も、そのつなぐ部分はもう少し広くして、今あるハナミズキや桜を生かせば、通る人もそこを見ながら行くようになっていいのではないかと。言っている。</p>	<p>活動の広場の整備方針に位置づけた ⇒ p.13、14</p>
活動の広場について	<p>新しくできる活動の広場について、競輪場と野球場をなくしたものの、ただの芝生広場ではつまらないものになってしまうので、何か公園の顔となるようなものを新しく何か考えられればと思う。</p>	
舟遊池について	<p>水は大事な要素だが、澱んでいてはマイナスであり、きれいな流れがあればプラスになることを意識すべき。</p> <p>夜間景観という観点から見たとき、水の景観を生かした取り組みも名所をつくるアイテムではないかと考えている。</p> <p>氷川には「川」という文字も入っており、水をこの公園のポイントにできればいいのではないかと。</p>	<p>文化の杜の整備方針に位置づけた ⇒ p.14</p>

Ⅱ 大宮公園ランドデザイン（案）

大宮公園ランドデザインの構成

1.大宮公園ランドデザインのねらい

- 1.1 背景と目的
- 1.2 対象範囲

2.大宮公園及び周辺地域の現状と特性

- 2.1 大宮公園の概要
- 2.2 地形特性
- 2.3 利用特性
- 2.4 大宮公園の歴史
- 2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

3.大宮公園をめぐる背景

- 3.1 社会動向
- 3.2 関連計画
- 3.3 大宮公園へのニーズ

4.大宮公園ランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項

- 4.1 5つの要素（大宮公園の特性）
- 4.2 5つの方向性

5.大宮公園の将来像

6.将来像の実現に向けた施策

- 6.1 氷川の杜や見沼田んぼの歴史・景観の継承
- 6.2 みどりの機能とオープンスペースの確保
- 6.3 世界に誇る公園文化の創造
- 6.4 公園を核とした地域のにぎわいづくり
- 6.5 持続可能な公園運営のしくみづくり

1. 大宮公園グランドデザインのねらい

1.1 背景と目的

(1) 背景

大宮公園は、1873（明治6）年の太政官布達を受け、1885（明治 18）年に開設された、埼玉県初の県営公園である。氷川神社の境内地の一部を官営化し、公園として開園して以来、130 年を超える歴史を有する。時代の要請に応じて整備・拡張が続けられ、行楽地や桜の名所、スポーツ・レクリエーションの拠点などの役割を果たしてきた。特に、1921（大正 10）年に、「日本の公園の父」と称される本多静六博士と、田村剛博士が策定した「氷川公園改良計画」では、桜の植栽や公園の拡張、舟遊池、運動場等を整備する計画が提案され、公園の整備・拡張が進められた。現在においても、自然景観の保全や経済振興を図ろうとしたその理念と、公園の骨格が引き継がれている。

昭和期になって本格的な公園整備が進められ、野球場・陸上競技場兼双輪場等が建設された。戦後になると、プールや体育館、サッカー場などのスポーツ施設が整備されるとともに、第二公園・第三公園が整備され、現在は約 68ha が供用されている。現在、年間約 200 万人の来訪者を集め、本多静六博士が構想したスポーツの殿堂とアカマツや桜の公園として、広く県民に親しまれている。その一方、3つの運動施設が立ち並んでいることによる回遊性の阻害や、体育館や水泳競技場等の施設の老朽化、桜の木の衰弱、樹林地がうっそうと茂ることによる開放感の低下など、様々な課題を抱え、その対応が求められている。

また、大宮駅を中心とする新たなまちづくりの動きや、都市公園制度の改正など公園を取り巻く状況が変化する中、埼玉県を代表する公園として、周辺のまちづくりと一体となった新たな魅力づくりが求められている。

(2) 目的

以上の背景を踏まえ、今後 100 年後を見据えた公園の将来像を明らかにするとともに、将来像の実現にむけた取組みの方向性を示すことを目的とする。

1.2 対象範囲

公園内の整備については、現在の都市計画決定区域及びその周辺範囲とする。

また、まちづくりや周辺地域との連携を考慮するため、南北はさいたま新都心から大宮盆栽村、東西は見沼田んぼから大宮駅までの範囲も対象とする。

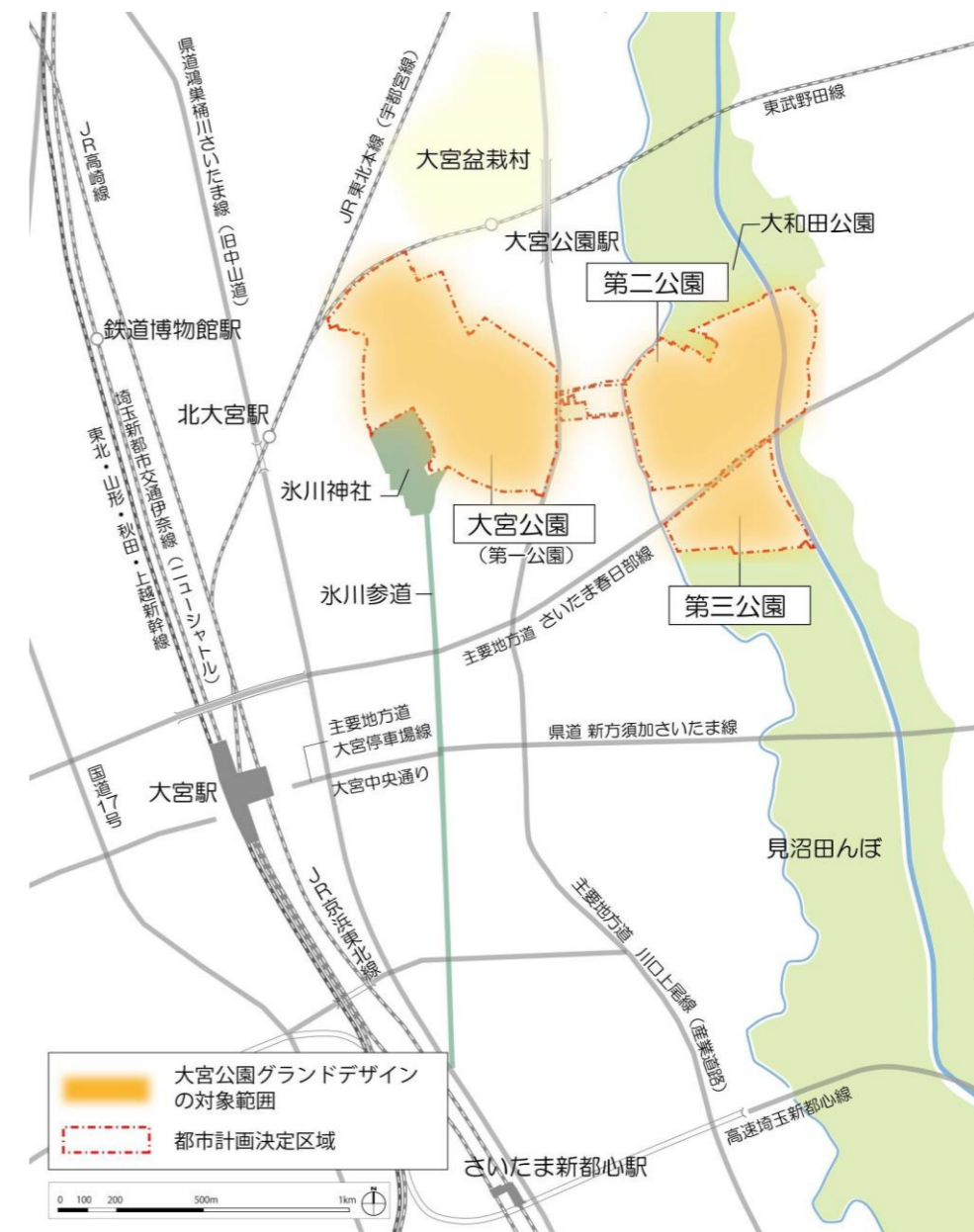


図 1-1 大宮公園グランドデザインの対象範囲

2. 大宮公園及び周辺地域の現状と特性

2.1 大宮公園の概要

「大宮公園」は大宮駅から東北へ約 1.5km に位置する。氷川神社に隣接する第一公園および第二公園・第三公園からなる。大宮公園の都市計画決定区域は 73.5ha であり、現在の整備済み面積は、第一公園が 34.6ha、第二公園が 23.4ha、第三公園が 9.8ha の合計 67.8ha である。

第一公園は、氷川の鎮守の森や、アカマツの古木とソメイヨシノが混在する樹林などが広がる自由広場が含まれる。また、サッカー場、野球場、双輪場・陸上競技場など大規模競技施設を含む競技施設等が全体の面積の約 4 割を占めている。

第二公園は多目的広場や調節地を中心とする広々とした広場、梅林・あじさい園・菖蒲園など四季折々の花の観賞スポット、テニスコートや軟式野球場等の施設が含まれる。

第三公園は、芝生広場やジョギングコースを有する広場園路があるほか、見沼田んぼの現風景を生かして作られた湿地（みぬまの沼）や、池畔の野鳥観察小屋がある。

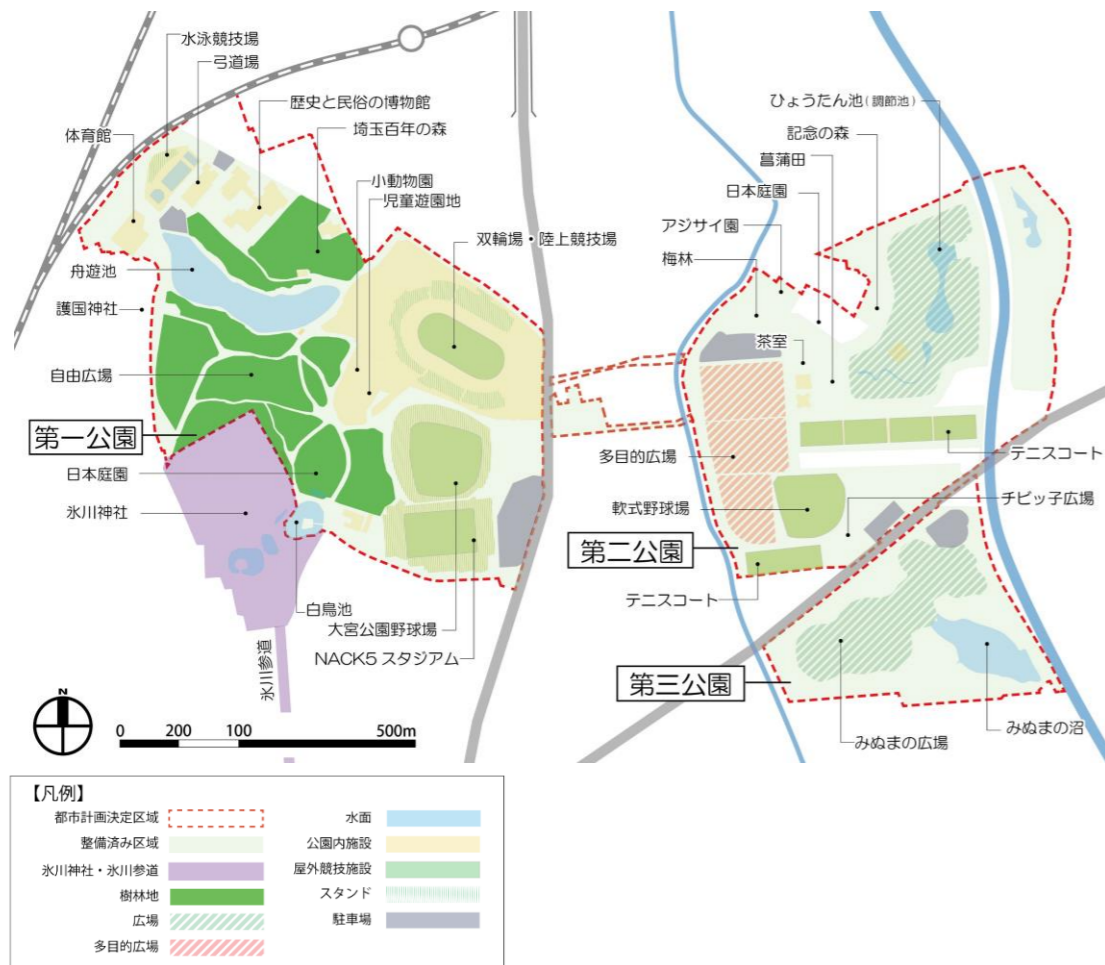


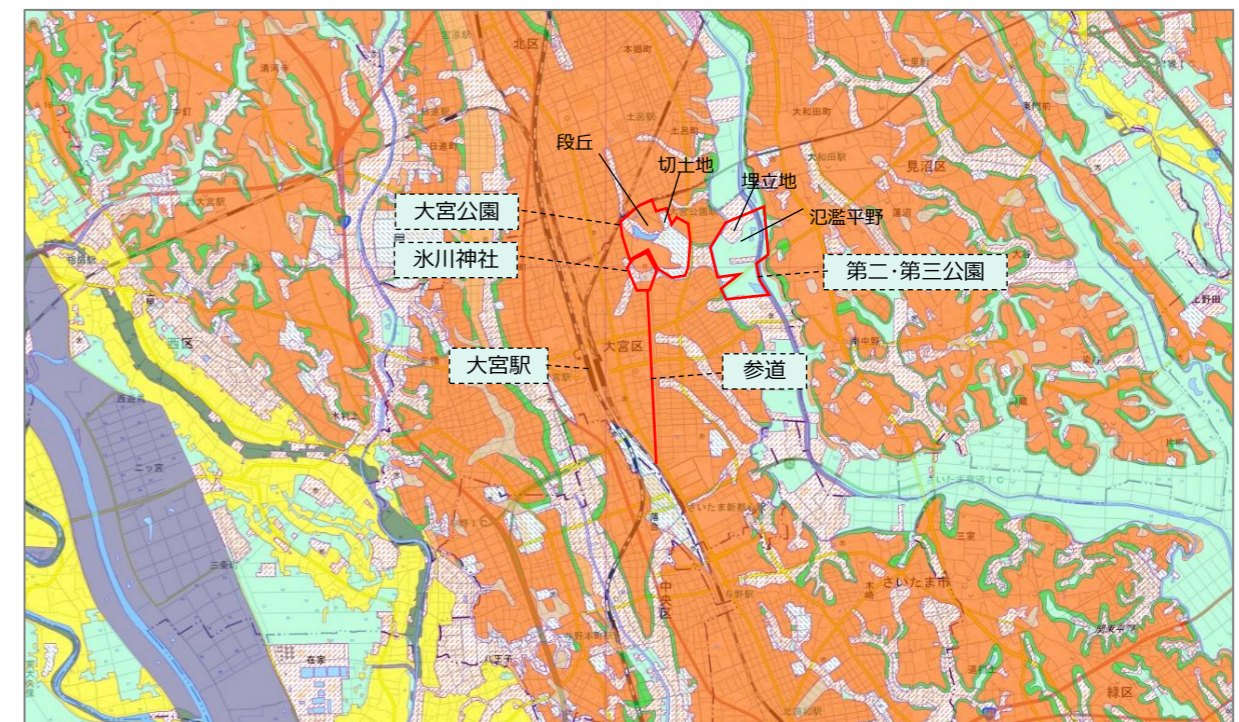
図 2-1 大宮公園の施設概要

2.2 地形特性

氷川神社及び大宮公園が位置する地は、大宮台地上の鼻のように高く突き出た位置にあるため、一体の地名は「高鼻町」と呼ばれる。台地から平地に移り変わる場所では湧水がみられ、現在でも氷川神社の「蛇の池」などでは湧水が確認される。

大宮台地は、比較的海抜高度が高く起伏の少ない平坦面で、関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われている。関東ローム層は、上部のローム土（赤土）と下部の凝灰質粘土に大別されるが、自然堆積したローム土は、安定しており比較的大きな強度がある。

土地条件図を見ると、大宮公園は段丘および切土地、埋立地に立地していることがわかる。第二・第三公園は、見沼田んぼを埋立て整備した経緯から、埋立地がほとんどを占めている。



配色	分類項目	説明
山地斜面等	山地・丘陵または台地の縁などの傾斜地。	
崖	自然にできた切り立った斜面。	
地すべり(滑溜層)	地すべりの頂部にできた崖。	
地すべり(移動体)	山体の一部が土塊として下方に滑动してきた地形。	
更新世段丘	約1万年前より古い時代に形成された台地や段丘。	
更新世段丘	約1万年前から現在にかけて形成された台地や段丘。	
台地・段丘	時代区分が明確でない台地や段丘。	
山麓堆積地形	斜面の下方、山頂の谷底または谷の出口等に堆積した、岩屑または風化土等の堆積地形。崩壊や土石流の被害を受けやすい。	
扇状地	河川が山地から平地に出た地点に砂礫が堆積してきた地形。	
自然堤防	洪水時に運ばれた砂礫が、流路沿いに堆積してきた段高地。	
砂州・砂堆・砂丘	砂州・砂堆は、現在及び過去の海岸、湖岸付近にあって波浪、沿岸流によってできた砂礫からなる段高地。砂丘は、風によって運ばれた砂からなる高い丘。	
天井川・天井川沿いの微高地	河床が周囲の低地よりも高い河川と、その周辺の微高地。	
凹地・浅い谷	台地・段丘や扇状地などの表面に形成された浅い凹地や侵蝕谷。豪雨時に地表水が集中しやすい。	
低地の一般面	谷底平野・氾濫平野	河川の氾濫により形成された低平な土地。
	海岸平野・三角洲	海水面の低下によって海底が隆化した平坦地や、河口部において砂や粘土等が堆積してきた平坦地。
	後背低地	河川の堆積作用が比較的及ばない低湿地。水はけが悪い。
	旧河道	低地の中で周囲より低い階段の凹地で、過去の河川流路の跡。
積水地	高水敷・低水敷・浜	堆水時に水溜る河川敷や、高波で冠水する沿岸地。
水部	湿地	地下水が湧き出やすく、水はけが悪いため水溜りしやすい土地。
	河川・水運線及び水面	河川・水運線など。
	旧水部	過去に海や湖沼だったところを埋め立てによって隆化した部分。
	農耕平坦化地	山地などを切り開いた農耕地。
全地形	切土地	山地などの造成地のうち、切取りによる平坦地や傾斜地。
	高い盛り土	約2m以上盛り土した人工造成地。主に海や谷を埋めた部分。
	盛り土・埋立地	低地に土を盛って造成した平坦地や、水を埋めた平坦地。
	干拓地	干潟や内陸水面を人工的に排水し、陸地となった平坦地。
	改良工事中の区域	回復作成時に、人工的な改良工事が行われていた区域。

図 2-2 大宮公園周辺の地形特性（出典：国土地理院地図（加筆））

2.3 利用特性

大宮公園全体の年間来園者数は約 200 万人である。時期でみると、サクラの花見や梅まつりには 10 万人以上が訪れている。主な施設についてみると、小動物園や歴史と民俗の博物館等の施設において集客量が多い。スポーツ施設については、双輪場（競輪観戦）や硬式野球場、NACK5 スタジアムに多くの観客が訪れている。稼働率でみると、体育館やテニスコートが 8 割以上と高い。

表 2-1 主な施設や時期の利用者数（平成 28 年度）

公園	施設	稼働率	年間利用者数	年間観客数	備考
第一公園	硬式野球場	54.4%	4.0 万人	13.4 万人	※4～11 月
	双輪場（競輪観戦）	18.7%	-	41 万人	
	双輪場（アマチュア選手などの利用）	-	0.4 万人	-	
	水泳場	72.7%	1.2 万人	-	※6～9 月
	体育館	80.8%	2.5 万人	-	廃止予定
	弓道場	59.6%	2.5 万人	-	
	小動物園	-	30.0 万人	-	
	児童遊園地（飛行塔）	-	4.0 万人	-	
	歴史と民俗の博物館	-	14 万人	-	
	NACK5 スタジアム	-	-	28 万人	
観桜期	-	13.3 万人	-	平成 29 年度	
第二公園	テニスコート	85.3%	11.9 万人	-	
	茶室	8.0%	-	-	
	軟式野球場	57.7%	1.2 万人	-	※3～11 月
	梅まつり、陶器市	-	10.6 万人	-	

出典：埼玉県公園スタジアム課資料

2.4 大宮公園の歴史

大宮公園は、1885（明治 18）年の開園から現在に至るまで、時代の要請に応え整備・拡張を続けてきた。ここでは、その整備の変遷について時代ごとに記す。

表 2-2 大宮公園の歴史年表

年号	主なできごと	
明治 6 年	太政官布達 16 号（公園候補地の選定）	
明治 18 年	大宮公園開園（氷川公園） 日本鉄道大宮駅開業	
(明治 38 年)	(10 軒程の割烹旅館が営業)	
大正 10 年	本多静六、田村剛による氷川公園改良計画	
昭和 3 年	氷川公園改良計画スタート	
昭和 8 年	児童遊園地開園	
昭和 9 年	野球場完成 日米親善野球（ベーブ・ルース、ルー・ゲーリックらがホームランを放った記録が残る） ボート池完成 埼玉県招魂社創祀（のちに護国神社へ改称）	
	昭和 15 年	双輪場・陸上競技場完成
	昭和 23 年	大宮公園に改称（正式に県立大宮公園）
昭和 24 年	第一回大宮競輪開催（東日本初）	
昭和 25 年	飛行塔設置（長岡市博覧会から移転）	
昭和 27 年	プール完成、体育館完成（現 百年の森）	
昭和 28 年	小動物園開園	
昭和 30 年	弓道場完成	
昭和 35 年	サッカー場完成	
昭和 46 年	百年の森完成、県立博物館完成	
昭和 47 年	新体育館完成	
昭和 55 年	弓道場改築 第二公園供用開始	
	昭和 58 年	プール改築
昭和 62 年	グリーンハーモニーさいたま'87（第 5 回全国都市緑化フェア）の開催（第二公園）	
平成元年	日本の都市公園 100 選に選定	
平成 2 年	さくらの名所 100 選に選定	
平成 4 年	新野球場完成	
平成 5 年	日本庭園完成（料亭石州楼跡）	
平成 13 年	第三公園供用開始	
平成 19 年	NACK5 スタジアム完成	

2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

大宮公園周辺に見られる多様な地域資源のうち、地域を特徴づける主要な資源について以下に概要を整理した。

「東日本の玄関口」としての大宮駅

大宮駅は東日本エリアへのハブ拠点であり、乗車人員数は 25.5 万人/日で全国 8 位である（2017 年度統計：JR 東日本）。

関東 11 都県をめぐる広域観光ルートの重要な結節点にもなっている（広域観光周遊ルート形成計画：観光庁）。

2018 年に策定された「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」に基づき、今後、大宮駅の駅前広場を中心とした交通基盤整備、駅前広場に隣接する街区のまちづくり、乗換改善等の駅機能の高度化など、「東日本の玄関口」としての地位確立にむけた取り組みが進められている。

日本の歴史・文化を伝える観光資源

大宮公園周辺には、年間参拝者が 600 万人にのぼる氷川神社、盆栽の聖地として国内外から多くの愛好家が訪れる大宮盆栽村、日本の鉄道史を代表する 41 両の実物車両が展示されている鉄道博物館など観光資源が点在している。

埼玉県立歴史と民俗の博物館を中心とした半径 1 km の範囲に 9 つの施設が位置することから「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」と称し、各施設が相互に連携し、地域活性化や情報発信力強化を図り、ルートマップ付ガイドブックの作成や、スタンプラリーの実施、地域の魅力を再発見する連続講座などが実施されている。

大宮アルディージャのまちのにぎわい

大宮公園内の NACK5 スタジアムは大宮アルディージャのホームスタジアムであり、年間 28 万人がサッカー観戦に訪れている。

また、大宮駅から NACK5 スタジアムに向かう一宮通りにおいては、歩きたくなる通りづくり、一体感と賑わいのある商店街づくりなど、地域資源を生かし、様々な組織・団体・行政・地元が協力した活動が行われている。

祭典・イベント

氷川神社では年中行事として、毎朝の日供祭、月毎の月次祭など、年間 60 以上の祭典が行われている。

また、関東一円の氷川神社の総本山、武蔵一宮氷川神社の例大祭に合わせた「中山道まつり」、市民が主体となった「大宮フリーマーケット」、「さんきゅう参道」など、地域のにぎわいづくりに向けたイベントが開催されている。

見沼んぼ

見沼んぼは、東京都心から 20~30km 圏内に位置し、約 1,260ha の広大な面積を持つ、首都近郊における貴重な緑地空間である。

見沼代用水の西縁・東縁には、総延長は 20km を超える「日本一」の桜回廊があり、花見やウォーキングなどの場として親しまれている。

また、市民が野菜づくりを楽しめる市民農園、収穫体験ができる県民ふれあい農園などがあり、都会では貴重な「農」を体験できる場となっている。

この他、「見沼・さぎ山交流ひろば」をはじめとする公園でイベント等が開催され、交流やコミュニティづくりの場となっている。

3. 大宮公園をめぐる背景

3.1 社会動向

●公園緑地政策の動向

- ◇ 新たな時代の緑の政策展開として、緑とオープンスペースによる都市のリノベーション／より柔軟に都市公園を使いこなすプランニングとマネジメントの強化／民との連携などが、これまで以上に重視されている。
- ◇ 都市公園制度の改正により、都市公園の再生・活性化に向けて、民間活力による新たな都市公園の整備手法が創設された。
- ◇ 2020年東京オリンピック・パラリンピック等を契機として、インバウンドの取り込みへの期待が高まっている。

●公園周辺のまちづくりの動向

- ◇ 大宮駅は、北陸新幹線や北海道新幹線の開業により交通結節点としての存在感が高まっており、駅周辺では都市計画道路の整備や公共施設の再編、市街地再開発事業などを契機として、市民、行政、企業、教育・研究機関など多様な主体の連携によるまちづくりの機運が高まっている。

3.3 大宮公園へのニーズ

●地域の声（大宮公園魅力アップ協議会からの主な意見）

- ◇ 桜の老木への対応・計画的な樹木管理（間伐や植替え）が必要。
- ◇ 赤松や桜が作る風景や、日本的景観を継承したい。
- ◇ 「氷川公園」から続く歴史や、明治・大正期のリゾート地であり多くの文豪に愛された歴史などを大切にしたい。
- ◇ 周辺施設と一体となったデザインや動線の連続性の確保が必要。
- ◇ 舟遊池のポートを復活させたい。
- ◇ 周辺の観光資源も含めた、エリア内回遊性向上が必要。等

●利用者のニーズ（公園利用者調査における意見）

- ◇ 公園にほしいものとして、「このままでよい」が最も多いが、次いでカフェ（飲食店等）やコンビニなどの売店を求める声が多い。
- ◇ これからの大宮公園に期待すること・改善してほしいこととして、トイレや駐車場の改善を求める声が多い。

3.2 関連計画

●見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針（H7）【埼玉県】

見沼たんぼについて、その保全・活用・創造を図るため、行政の果たすべき役割を明示するとともに、土地利用の基準を定めている。

●首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン（H16）【自然環境の総点検等に関する協議会】

見沼たんぼは、首都圏に残されたまとまりのある貴重な自然環境（保全すべき自然環境）として位置づけられ、**将来にわたって首都圏の水と緑のネットワークの中核となること**が求められている。

●さいたま市緑の基本計画（H17策定・H19改定）【さいたま市】

大宮公園は、盆栽村・氷川神社周辺とともに「**緑のシンボル核**」に位置づけられ、**歴史・文化資源と新しい都市空間の様々な緑の融合や、さいたま市の顔となる緑の創出**が求められている。

第二・第三公園は、さいたま市の緑の大きな骨格を形成し、首都圏の広域的な環境保全を担う「**見沼田圃シンボル軸**」の一部に位置づけられ、**既存の公園緑地の一層の充実**が求められている。

●さいたま市都市景観形成基本計画（H19）【さいたま市】

氷川神社、氷川参道一体は「**歴史文化景観拠点**」に位置づけられ、「**氷川神社、氷川参道のみどりと歴史文化資源を守り、生かす景観づくり**」が求められている。

「見沼田圃景観軸」では、「**見沼田圃の広がりを守り、生かす景観づくり**」が求められている。

●大宮駅周辺地域戦略ビジョン（H22）【さいたま市】

「氷川の杜、継ぐまち」の実現に向け、**氷川の杜や見沼田圃の生態系の保全・回復**が求められている。

氷川参道や大宮公園、見沼田圃などの資源と連携し、その魅力や価値を享受した地域文化を継承しつつ、新たなライフスタイルを創造することで、**豊かな都市生活を営める地域の形成**が求められている。

●さいたま市見沼田圃基本計画（H23）【さいたま市】

第二・第三公園は、**防災機能の充実や、斜面林、芝川、公園等の連続性の確保**が求められている。

大宮公園全体として、**環境整備により生態系を拡大する方針**が示されている。

●さいたま市総合振興計画（H26）【さいたま市】

大宮区の将来像として「**うるおいのある高度な生活基盤と氷川の緑と文化が調和するまち**」が位置づけられ、「**氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など地域固有の資源を活用した個性ある地域文化の創造と発信**」、「**氷川の杜や見沼田圃の自然の保全・憩いの場としての活用**」などが求められている。

●さいたま市都市計画マスタープラン（H26）【さいたま市】

「みどりのシンボル核」では、みどりの拠点を結ぶ回遊ルートの整備や一体的な緑化の推進により、**さいたま市を代表し、魅力を創出するみどり空間の形成**が求められている。

●さいたま市観光振興ビジョン（H26）【さいたま市】

さいたま市の観光の課題として「**観光資源の連携**」が挙げられ、市内での滞留時間を延ばし、経済効果につなげていくためにも、観光資源の連携を図り、回遊性を促進することが重要とされている。

また、**連携させることで相乗効果が期待できる資源**として、大宮盆栽村、大宮盆栽美術館、漫画会館、武蔵一宮氷川神社、大宮公園、歴史と民俗の博物館などが示されている。

●首都圏広域地方計画（H28）【国土交通省】

大宮は、東日本からの多種多様なヒト、モノが実際に集結して交流する東の玄関口となる国際的な交通結節点として、**連携・交流機能の集積・強化**を図るとともに、**首都直下地震の発災時の首都圏のバックアップ拠点としての強化**を図ることが位置づけられている。

●大宮駅グランドセントラルステーション化構想（H30）【さいたま市】

大宮駅周辺の都市機能の考え方として、「**東日本の対流拠点に相応しく、氷川の杜、見沼たんぼ等の豊かな自然環境が感じられ、風格と品格を備えた景観形成**」が位置づけられている。

まちづくり・景観・環境・観光・防災など多くの分野において、豊かな緑・オープンスペースを有する大宮公園の果たす役割が期待されている。

4. 大宮公園ランドデザイン検討にあたり考慮すべき事項

4.1 5つの要素（大宮公園の特性）

大宮公園の特性として、「緑地・空間」、「歴史・文化」、「水系」、「スポーツ・レクリエーション」、「にぎわい・交流」の5つの要素を整理した。

緑地・空間

●広域的な環境を支えるみどり

- ◇ 68haの広大なオープンスペース：中心市街地の中の貴重なみどりであり、ヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善に貢献
- ◇ 首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間である見沼田んぼ：遊水地としての機能や広域・都市レベルの骨格を形成

●生き物の生息空間

- ◇ 樹林地や草地、湿地など多様な環境：都市の生物多様性を支える重要な役割

●地域のアイデンティティを育む景観形成

- ◇ 氷川神社と一体となった社叢林や樹齢100年をこえるアカマツ林、約1,000本のサクラの疎林など：歴史を象徴し風格ある景観を形成
- ◇ 「大宮二十景」（ハナミズキの並木道など大宮公園に関するスポットが7箇所選定されている）：大宮区民が愛着を感じる景観を形成

●安全な暮らしを支える空間

- ◇ さいたま市の広域避難場所：災害時に危険から身を守る重要な役割
- ◇ 公園内の調節池：芝川の調節池を兼ねており、市民の安全な暮らしに貢献

歴史・文化

●見沼の歴史

- ◇ 「神沼」「御沼」とも呼ばれ、神聖な水をたたえていた池沼
- ◇ 見沼田んぼ：江戸時代に水田として開かれた農業生産の場

●氷川神社の歴史

- ◇ 2000年を超えるとされる歴史を有する
- ◇ 大いなる宮居としての大宮の地名の由来ともなる国内屈指の古社
- ◇ 「水」に由来し、大宮台地端部の湧水が信仰対象

●行楽地としての歴史

- ◇ 熱海と並び東京の奥座敷
- ◇ 春の桜やワラビ狩り、夏の見沼の螢狩り、秋の松茸狩り、冬の雪見の絶景など四季折々の風流
- ◇ 休憩施設「宮翠楼」、高級料亭「方松楼」「石州楼」、「遊園地ホテル」等がかつて存在

●文学・芸術

- ◇ 多くの文学者が訪れ、作品の舞台や絵画の題材として取り上げた地
- ◇ 有名な建築家・故前川國男氏による設計「埼玉県立歴史と民俗の博物館」

水系

●湧水が作り出した池

- ◇ 大宮台地の縁辺部にあたり、湧水が多様な池を形成
- ◇ 大宮公園のエントランス部分にある白鳥池
- ◇ かつてボート遊びが行われていた舟遊池
- ◇ 神が宿る池とされる神池、蛇の池、御神水（氷川神社）

●見沼につながる池沼

- ◇ 芝川の洪水の調節池として整備されたひょうたん池
- ◇ 見沼の湿地を再現したみぬまの沼

スポーツ・レクリエーション

●歴史ある競技施設群

- ◇ 本多静六博士らの計画した大運動場のあたりに、競技施設が建設された
- ◇ スポーツイベントの拠点（Jリーグ、プロ野球、高校野球、競輪の観戦に多くの人々が来園）
- ◇ テニスコートや軟式野球場、体育館等は一般市民のスポーツの場

●健康づくり

- ◇ 周辺の芝川や見沼田んぼなども含めたウォーキングコースの一部
- ◇ 散歩やウォーキング・ランニング・サイクリング等の場として、県民の健康づくりに寄与
- ◇ 青空ヨガ・キッズヨガなどのヨガ教室、スポーツフェスタ等のイベント

●レクリエーション

- ◇ 子どもから大人まで幅広い世代が楽しめる多種多様なレクリエーション・学びの場（芝生広場でのピクニックや、調節池周辺の広々とした斜面での遊び、ひょうたん池のように釣りが楽しめるスポット、水鳥や野鳥の観察ができるスポット、動物とのふれあいが楽しめる小動物園等）
- ◇ 花とみどりを楽しみ、体験する文化の発信拠点（竹とんぼやリース作りなどの自然工作体験、七夕飾り、夏の虫観察会、ひまわり種まき大作戦など親子で楽しめる様々なイベント等）
- ◇ NPO法人の主催により、「大宮プレーパーク」（冒険遊び場）が開かれ、子どもたちが自由に遊べる場が提供されている。

にぎわい・交流

●氷川神社

- ◇ 年間600万人の参拝客

●スポーツ

- ◇ 大宮アルディージャ、競輪、西武ライオンズの観戦客

●季節の花の観賞・イベント

- ◇ 「桜の名所100選」に選定
- ◇ 第一公園の桜、見沼代用水沿い、芝川沿いの桜並木など、多くの花見客でにぎわう
- ◇ 白加賀・八重寒紅梅を中心とする約40品種500本の梅
- ◇ 梅祭りににぎわい（陶器市やお茶会、コンサートなど様々なイベントを同時開催）
- ◇ 連絡通路のハナミズキや第二公園のアジサイ・ショウブなど四季を通じた植物の鑑賞

4.2 5つの方向性

大宮公園の特性及び周辺計画との関係性、大宮公園へのニーズや社会動向を踏まえ、ランドデザイン検討にあたり考慮すべき事項を以下に示す。

氷川の杜や見沼田んぼの歴史・景観の継承

大宮公園には、氷川神社と一体となって風格を醸し出す社叢林、桜やアカマツの疎林、見沼田んぼに連続する景観といった、歴史的な風景が残されている。

一方、樹木の老齢化、鬱蒼として薄暗いイメージがある、池の水質が劣化しているなど、問題も生じている。

氷川の杜や見沼田んぼの歴史・景観を保全し、後世に引き継いでいくことが求められる。

みどりの機能とオープンスペースの確保

大宮公園は、市街化の進んだ都市における貴重な緑地であり、みどりの機能はヒートアイランド現象の緩和や生態系保全など、環境面における重要な役割を果たしている。

また、そのオープンスペースは、災害時における避難場所や復旧の拠点となるなど、防災面での果たす役割も大きい。

魅力ある公園文化の創造

かつての大宮公園には料亭や旅館があり、多くの文人墨客が訪れ、風流を楽しむなど、文化や芸術のインスピレーションの場であった。また、スポーツ競技施設が建設され、多様なスポーツが盛んに行われてきた。

現在、施設の老朽化や魅力低下など様々な課題がある中、民間活力の導入など新しい手法も取り入れ、大宮公園において、魅力ある公園文化を創造・発信し、地域住民や来園者のライフスタイルの向上に資することが求められる。

公園を核とした地域のにぎわいづくり

大宮公園は、東日本の玄関口たる大宮駅にほど近く、一方で周辺には閑静な住宅街も広がっている。また、大宮公園周辺には魅力的な観光資源が点在している。

このような地理的条件を踏まえ、エリアマネジメント導入など地域との連携による公園の魅力アップ、大宮駅からの回遊性向上によるまちの魅力アップ、さらには、周辺の観光資源との連携による地域の魅力アップを図り、大宮地区のにぎわいづくりに資することが求められる。

持続可能な公園運営のしくみづくり

超少子高齢化社会に突入し、公共事業の予算や人員の確保も厳しくなる中、行政のみでの公園管理には限界がある。

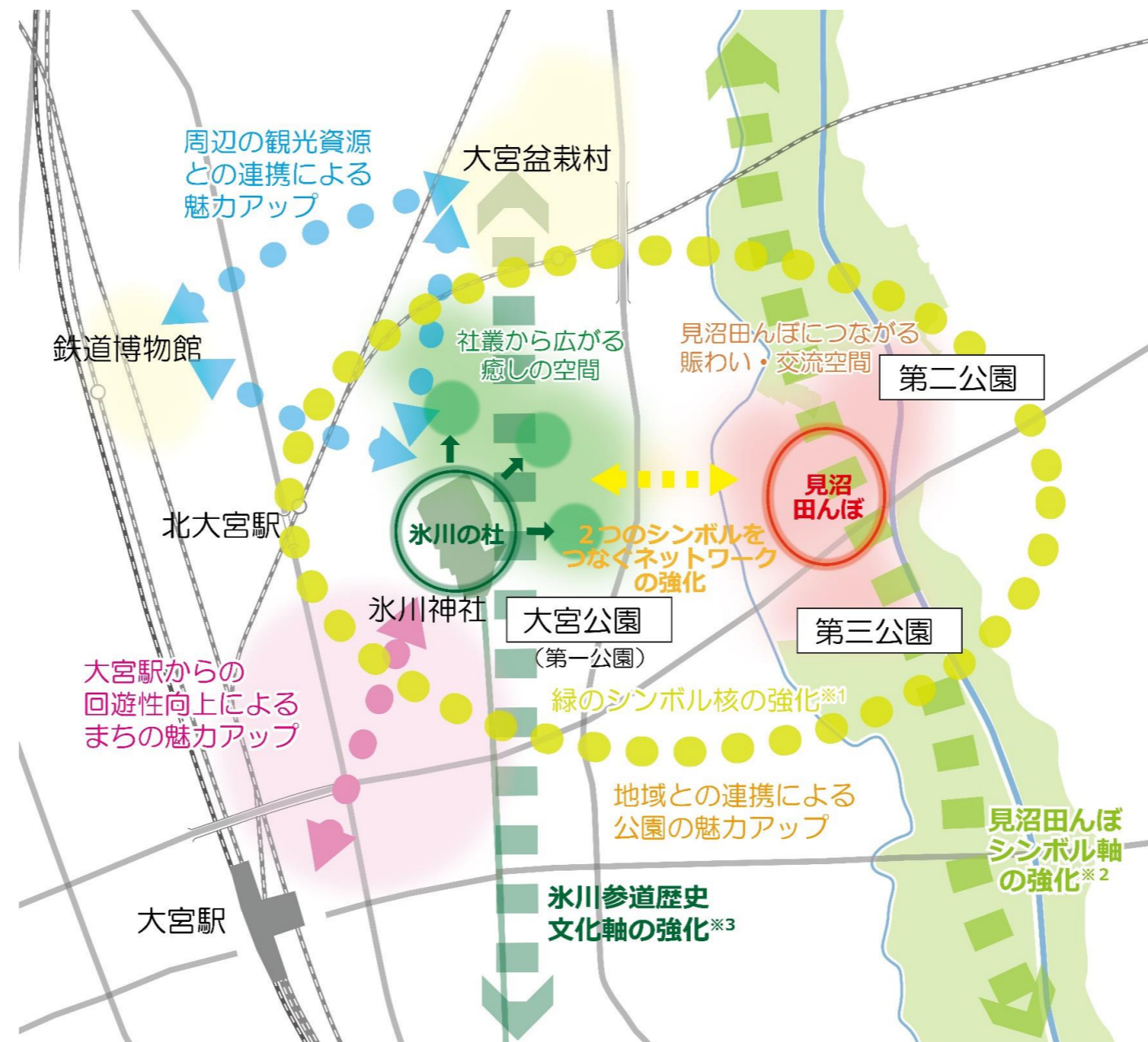
民との連携によるパークマネジメントの推進や、多様な主体が公園運営に関わるしくみをつくることにより、持続可能な公園運営を行う必要がある。

また、公園の魅力向上には来園者の増加を図る必要があり、駅等でのPRやSNSを用いた情報発信などプロモーションの推進も求められる。

5. 大宮公園の将来像

氷川の杜と見沼田んぼの継承 ～公園が舞台になるライフスタイル・世界に誇る公園文化の創造～

地域のみどりのシンボル「氷川の杜」と「見沼田んぼ」を継承しつつ、
この2つのエリアをつなぐネットワークを強化し、地域との連携による公園の魅力アップを図る
大宮駅から大宮公園への回遊性を向上させ、まちの魅力アップを図る
大宮盆栽村、鉄道博物館など、周辺の観光資源との連携による地域の魅力アップを図る
公園が舞台になるライフスタイルの魅力づくりを進め、世界に誇る公園文化の創造拠点となることを目指す。



※1～2：さいたま市緑の基本計画に位置づけられる
※3：大宮駅周辺地域戦略ビジョンに位置づけられる

6. 将来像の実現に向けた施策

将来像の実現に向けた施策を以下に示す。

氷川の杜や見沼田んぼの 歴史・景観の継承

- **風格ある氷川の杜の保全・育成**
 - ◇ 氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり
 - ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
 - ◇ 氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備
- **桜の再生**
 - ◇ 適切な密度管理による見通し・明るさの確保
 - ◇ 老齢木の計画的な間伐・植え替え
 - ◇ 桜守ボランティアと連携した桜の維持管理
- **アカマツ林の保全・育成**
 - ◇ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成
- **見沼田んぼに広がる風景・空間づくり**
 - ◇ 見沼田んぼとの連続性が感じられる空間づくり
 - ◇ 見沼田んぼへつながるウォーキングルートの充実

みどりの機能と オープンスペースの確保

- **氷川の杜と見沼田んぼをつなぐ生態系ネットワークの充実**
 - ◇ 氷川の杜と見沼田んぼを結ぶ空間づくり
- **生物多様性に配慮した公園づくり**
 - ◇ 生き物の生息に配慮した空間づくり
- **親水空間の再生**
 - ◇ 水に触れ、親しむことのできる空間づくり
 - ◇ 池の水質改善
- **四季折々の表情が楽しめる空間づくり**
 - ◇ 季節を彩る樹木や花の植栽、適切な維持管理
- **防災機能の強化**
 - ◇ 広域避難場所としての機能強化（屋根付き広場、大型休憩舎の整備等）
 - ◇ 河川調節池を活用した防災教育プログラム

世界に誇る 公園文化の創造

- **魅力的な景観づくり**
 - ◇ 舟遊池を生かした景観づくり
 - ◇ 博物館周辺の景観づくり
 - ◇ 視点場の確保
 - ◇ ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ
- **おもてなし機能の充実**
 - ◇ エントランス機能の充実
 - ◇ 公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置
 - ◇ 外国人向けの日本文化体験プログラムの提供
- **宿泊や飲食機能等の充実**
 - ◇ Park-PFI 等による便益施設の整備
- **文化・アートの充実**
 - ◇ 文化・アートのイベント誘致（トリエンナーレ等）
 - ◇ 文化・アートの発信拠点となる教養施設の整備
 - ◇ アーティスト・デザイナーとの連携による質の高い空間づくり
- **時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり**
 - ◇ 多様な活動やイベントに対応できる広場づくり
 - ◇ 多機能スタジアムの導入
 - ◇ スポーツ・レクリエーションプログラムの実施
- **誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり**
 - ◇ ユニバーサルデザインの推進
 - ◇ 多言語に対応したガイドシステム整備
 - ◇ 誰もが利用しやすい清潔なトイレの整備
 - ◇ サイン整備

公園を核とした 地域のにぎわいづくり

- **周辺の地域資源との連携**
 - ◇ 氷川神社や周辺の商店等と連携したイベントの開催（まち歩き、まちバル、マルシェ、フェス等）
 - ◇ 公園を拠点に周辺の観光資源をめぐる、歩いて楽しい回遊ルートづくり（マップ作成、サイン整備等）
- **駅からのアクセス向上**
 - ◇ コミュニティサイクル等の活用の検討
 - ◇ サイクルステーションの設置検討
 - ◇ 駅から公園に人々を誘導する取組み（サイン整備等）
- **公園を核としたエリアマネジメントの推進**
 - ◇ 大宮公園周辺のまちづくりと連携したエリアマネジメントの仕組みの検討・導入
 - ◇ 見沼田んぼとの一体的な田園空間づくりに向けたエリアマネジメントの仕組みの検討・導入

継続可能な 公園運営のしくみづくり

- **プロモーションの推進**
 - ◇ 駅・空港等における公園のPR
 - ◇ SNS 等を活用した四季のみどころ紹介やタイムリーな情報発信
 - ◇ 公園のブランドイメージづくり
 - ◇ 魅力的なパークライフを紹介する冊子の作成
- **民との連携によるパークマネジメントの推進**
 - ◇ Park-PFI 等による便益施設の整備
 - ◇ 民の参画する協議会等の運営組織によるパークマネジメントの推進
- **多様な主体が運営に関わる仕組みづくり**
 - ◇ アダプトプログラム等の導入
 - ◇ 気軽にボランティア等を体験できる機会づくり
 - ◇ 市民団体によるイベント等公園プログラムの運営
 - ◇ BID の導入等、エリアマネジメントを持続的に展開する仕組みの検討